

# 地域ぐるみで子どもを育む仕組み「地域協育ネット」の概要

## 1 「地域協育ネット」推進の背景

### (1) 学校・家庭・地域が連携した仕組みづくりの必要性

近年、少子高齢化、高度情報化、グローバル化の進展など、社会環境が大きく変化する中で、規範意識の低下、生活習慣の未確立、コミュニケーション能力の低下など、子どもたちの育ちに関する様々な課題が指摘されています。

こうした中、学校では、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成に向けた教育活動の一層の充実とともに、児童生徒の問題行動への対応、特別支援教育やキャリア教育の充実、情報教育や環境教育等の現代的課題への対応等、多くのことが求められています。

一方、地域に目を向けると、人々の地縁的なつながりが薄れてきており、かつて多くの地域で見られていたような、地域での子ども同士遊びや子どもたちと大人の交流といった光景は少なくなってきました。また、家庭においても、核家族化や地域における人間関係の希薄化等を背景に、子育てに関する悩みや不安をもつ親の増加や孤立化の問題などが指摘されています。

子どもたちの「生きる力」は、学校における組織的・計画的な学習とともに、親子のふれあいや友だちとの遊び、地域の人々との様々な体験を通して根付いていくものです。こうした環境を子どもたちに保障していくために、学校・家庭・地域の連携が必要であることはこれまで言われてきたことですが、今求められているのはそのための具体的な体制づくりです。学校・家庭・地域の連携を実際に機能するものとして定着させるためには、各地域の関係者が互いに連携して、継続性のある具体的な仕組みづくりを進めていくことが重要です。

### (2) 本県のこれまでの取組

本県では、これまで、「学校支援地域本部事業」や「コミュニティ・スクール推進事業」をはじめとした諸事業により、学校・家庭・地域の連携に向けた体制づくりを進めてきました。こうした取組を通して、ボランティアの組織化による教育支援活動の充実や、地域の人々の参画を得た学校運営の充実等、多くの成果が報告されました。

その反面で、支援者をつなぐコーディネーターの確保や、一つの地域での支援活動の重複、学校間の連携の不足等の課題も指摘されています。

学校・家庭・地域の連携による教育力向上を一層図るためには、個々の事業に留まらず、子どもたちが生活する地域の体制がどのようになればよいのかという視点で、取組をより総合的・俯瞰的に見て体制づくりをしていくことが求められています。

こうした中、昨年度から、地域ぐるみで子どもたちを見守り、支援するための、概ね中学校区を一まとまりとした仕組みである「地域協育ネット」を市町教委と連携を図りながら推進しています。